

大田ちひろ 生き生きレポート

発行:大田ちひろ
埼玉県越谷市東越谷1-5-17
電話・FAX 048-962-8052

WEB <https://lit.link/chihiro0413>
ご意見・ご要望をお寄せください。
Mail:koshigaya.net@gmail.com



Facebook



Instagram



越谷市議会 6月定例会報告

一般質問 中学校給食費の無償化を求めました

問 今年4月から国の制度により**小学校給食費の無償化がスタート**した。しかし、中学校給食費は対象外で、保護者負担が続いている。部活動や進学費用も重なり、家計への負担は決して小さくない。

小学校給食費の無償化がスタート



中学校給食費は対象外

久喜市では今年4月から小中学校の給食費を無償化し、坂戸市、戸田市、幸手市でも市独自の支援が行われている。越谷市でも市独自で中学校給食費を無償化する考えは。

市長 現在、中学校給食費は月額5,553円だが、保護者負担は4,850円に据え置き、その差額は市が負担している。市独自で完全無償化するには年間約3億9,000万円が必要となり、財政への影響が大きいことから現時点では難しい。国では中学校給食費の無償化について課題整理を進めており、その動向を注視していく。

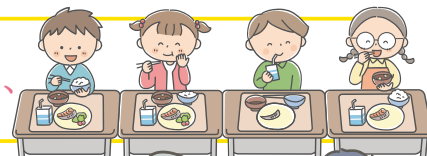
中学校給食費
月額5,553円

差額は市が負担
保護者負担
4,850円

市独自で
完全無償化
年間
約**3億9,000万円**
必要

大田の一言

どこに住んでいても等しく支援を受けられるよう、**国には中学校給食費を含めた全国一律の給食費無償化を、一日も早く実現してもらいたい**と思います。



一般質問 誰もが安心して外出できる環境整備を求めて

問 障がいのある方や高齢者、その介助を行う家族にとって、**介助用ベッド(ユニバーサルシート)**は安心して外出するために欠かせない。しかし、市内の地区センター・公民館や市民会館では設置が十分とは言えない。**現在の設置状況と、今後の整備について**伺う。

市長 介助用ベッドは、出羽地区センター・公民館に1台、大袋地区センター・公民館に**2台設置されているが、それ以外の地区センター・公民館や市民会館には設置されていない**。今後は、建設を予定している川柳地区センター・公民館への設置を進めるとともに、既存施設についても

大規模改修などの機会を捉え、**設置を調査・検討していく。**

折り畳み式・移動式介助用ベッドについても、設置スペースや安全性などの課題を整理しながら、活用を検討していく。

大田の一言

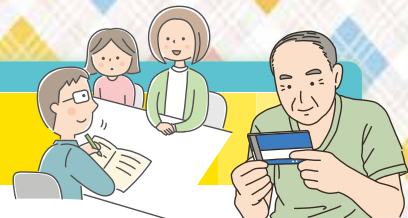


市内在住の障害のあるお子さんを育てている方からのご相談を受けて今回一般質問しました。誰もが安心して公共施設を利用できるよう、**既存施設への整備や、介助用ベッドの設置場所が分かる情報発信**についても、引き続き提案していきます。



補正予算

国、敗訴の判決を受けて生活保護の追加支給



生活保護は、病気や失業、高齢などさまざまな事情で生活に困窮した方に対し、健康で文化的な最低限度の生活を保障する「最後のセーフティネット」です。



平成25年の生活扶助基準引下げについて、最高裁判所は違法と判断しました。この判決を受け、越谷市でも追加給付のための補正予算が計上されました。

現在受給中の約3,600世帯には追加給付が行われますが、過去に生活保護を受給し現在は廃止となっている約2,600世帯は、自ら申請しなければ給付を受けることができません。



平成25年
生活扶助基準引下げ

違法

個別通知ではなく、市広報やホームページ、コールセンターなどによる周知が中心となるため、制度を知らなければ申請につながらない可能性があります。

さらに、追加給付額は受給期間や世帯構成などによって異なり、数百円から数十万円まで幅があります。対象者の確認や給付額の算定、問い合わせ対応など、自治体に事務負担も生じています。

国の制度設計や判断の影響は、自治体と市民が受けることになります。国には自治体や市民に過度な負担を生じさせない責任ある制度改正を強く求めます。

生活保護を受給中
約3,600世帯

追加給付

過去に生活保護を受給
現在は廃止となっている

約2,600世帯は
自ら申請が必要

意見書

イラン戦争の終結に向けさらなる働きかけを求める意見書



ナフサをはじめとする原油を原料とするあらゆる物資が不足している状況はイラン戦争をきっかけとしたホルムズ海峡の封鎖にあります。

十分に確保されていると言われていますが末端の医療現場や建設・建築現場などには行き渡らず、市民生活や市内事業所の営業に多大な影響がでています。

解決・改善のためにはイラン戦争が終結することが近道です。アメリカ、イラン両国とイスラエルに対してあらゆる外交努力を尽くすなどさらなる働きかけを求めるとして意見書が提出されました。



採決は6月18日閉会日で、調印が6月19日とされていましてので両国の動向が気になるどころでしたが大田・清水は賛同議員として名を連ねると共に清水は賛成討論をいたしました。反対はネクスト越谷と日本維新の会で、賛成22、反対8で意見書は可決されました。

イラン戦争の終結に向けさらなる働きかけを求める意見書

意見書は可決

賛成 22

大田・清水は賛同

反対 8



〈大田ちひろプロフィール〉

- 1981年生まれ 高知県出身
- 南越谷地区在住
- 民生常任委員会

コロナ禍を経て社会の課題に気づき議員となりました。黙っていても望む社会は手に入りません。暮らしの声を市政に伝えます。

